

白浜レスキューネットワーク通信 9月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://www.aikis.or.jp/~fujiyabu/nrsv1.htm>

e-mail yabiumi@yahoo.co.jp

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

9月1日～9月30日

電話件数 73件

保護件数 11件(男性8人、女性3人)

帰宅件数 9件(男性7人、女性2人)

○5日、三段壁から電話があり、30代の男性を保護した。躁うつ病を患っており、精神科の病院に通院していた。話をしている中で落ち着き、翌日帰宅した。

○7日、以前から相談を受けていた30代の男性から「手伝いがしたい」と電話があり、共同生活に加わることになった。引き籠っているところからなんとか出てくることできるようになってきていた。草むしりや農作業にかかわり汗を流して良く働いた。しかし、数日後、疲れが出たとひとまず帰宅することになった。今後も関わりを続けていければと思っている。

○8日、倉敷市の60代の女性を保護した。毎週水曜日の相談電話の時間に相談を受けてきた女性だった。滞在中、フラッシュバックして嫌だったことを思い出してしまったようで、「この建物が怖い」と一晩中外のベンチで動けなくなってしまった。さらに翌朝、三段壁に向けて、飛び出してしまう、水曜日の相談電話で話を聞いている相談員も共に保護しに向かった。話をしていく中で落ち着きを取り戻し、帰宅した。

○11日、三段壁から電話があり、男性を保護した。翌日帰宅した。

○16日、朝4時過ぎ、三段壁から電話があり、30代の女性を保護した。5分以上続く無言電話のあと、「飛び降りたら死ぬますか？」と。三段壁にいることがわかり、保護に向かった。てんかんのような発作を起こしてしまう場面が

あった。役場と保健所の職員が精神科の病院と母親につないだ。その日は家には帰らず近くのビジネスホテルに泊まる約束になっていたが、再び三段壁に来てしまったと電話があった。翌日精神科の病院に入院することになった。

○同日、夕方三段壁から電話があり、50代の女性を保護した。昨年6月ごろにも保護したことがあり、その時には知り合いを頼ることになったが、そこでもうまくいけなくなり、再び三段壁へ。死を覚悟してきたものの、最後に息子に電話をした際、息子が「死んだらあかん」と本気で怒ってくれ、それが嬉しくてもう一度電話をする気持ちになったという。共同生活に加わることになった。

○同日、田辺市にいる50代の男性から電話があり、迎えに行き保護した。数日前に三段壁を訪れ、看板を見ていた。数日間はビジネスホテルで滞在していたが、所持金がなくなり電話をかけた。生きていても楽しいと思えることがなく、飛び込んだら楽かなと思っていた。共同生活に自立を目指して頑張ることになった。

○20日、数年前から関わりのある70代の男性を保護した。翌日帰宅した。

○26日朝、三段壁から電話があり、20代の大学生の男性を保護した。数年前に彼女を自死で亡くしたことや、最近になってお世話になっていた方がなくなり、その喪失感から死のうと思ってきた。荷物一つ持たず、一晩三段壁で過ごしたようだった。話をしている中で落ち着き、今後も連絡取る約束をしてその日に帰宅した。

○29日、近くに住む40代の男性が相談にきた。職場での人間関係や妻との関係に悩んでいた。その日に帰宅した。

○29日、40代の聴覚障害をもつ男性が当NPO

を訪ねてきた。各地を転々とする生活を送っているようだ。一晚滞在したが、共同生活に馴染むことができないこと、もともとお世話になっていた方と和解できたこともあり、翌日帰宅した。

生活自立支援活動

9月1日～9月30日

滞在者数 15人(男性13人、女性2人)

自主退所 1名(男性1人)

○9月初め、今までまちなかキッチンや農業に携わっていた男性が突然自転車でいなくなりました。ここでの生活に不満がたまってした決断だった。信頼していた分ショックも大きかった。

○今月保護した女性は、就職活動を始め、旅館の皿洗いの仕事に就くことができた。

○今月保護した男性も自転車で職安に通い、就職活動を始めた。運送業の経験があるため、車を使った仕事に就けないかと探している。

○9月初め、まちなかキッチンの惣菜屋で働いている10代の男性が、移動販売の帰りに単独の物損事故を起こしてしまいました。幸いけがはなく、保険会社に処理もらった。車は廃車になった。

○まちなかキッチンの惣菜を手伝いつつ、居酒屋でアルバイトをしている男性が、4日ほど実家へ帰省した。近い将来実家に帰って友人らとともに飲食店をしたいと夢見ている。その実現に向けて大きな一歩だった。

○耳の不自由な男性が、共同生活から卒業したいと打ち明けた。きちっとした性格で、病気もたくさんあるため、それが実現していくように行政の助けを借りながらサポートしていきたい。

○先月保護された男性は、まちなかキッチンの配達や農作業に加わり頑張っている。病院にも通院し、手術の日程の調整などを行っている。時々めまいに悩まされているが、基本的には明るくなってきたことを喜んでいる。

○収穫したしそやバジル、オクラを調理して、しそジュース、バジルソーススパゲティ、オクラのおかか和えをつくっている。身内にお分けしたり、みんなで食べている。

東京から大学生が研修に来た。今回は卒業論文のインタビューも兼ねている。

自殺予防活動

・放課後クラブ「コペルくん」

9月は、運動会と国体で大忙しの一カ月だった。高学年は、組体操の練習に苦勞し、今日は誰が泣いたとか、誰が落ちたとか一生懸命話してくれた。夏休み明けから、1年生の三つ子が毎日通ってくるようになり、さらに明るくにぎやかになった。上級生は、三つ子がかわいいようで急にお兄さんやお姉さんになったようにお世話している。

料理旅館に勤めている30代の男性が、仕事が休みになると、コペルくんの子どもたちのために手作りおやつを用意してくれている。ドーナツやプリン、白玉等々。子どもたちに大人気だ。(写真は手作りおはぎ!)



・相談電話

2日、9日、16日、23日、30日に行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

・まちなかキッチン

9月初め、弁当の配達等をしていた男性が突然抜けてしまったため、その穴を埋めるのに苦勞するスタートだった。また、弁当の主菜を中心に作っていた男性が、今まで掛け持ちしていた仕事をひとつにまとめることとなり、まちなかキッチンを引退することになった。今後もピンチヒッターとして関わり続けてくれることになった。病気で入院中だったスタッフが退院し、惣菜の調理に復帰することができた。